

徳島県立文学書道館 文学特別展

鳴門を描いた文学

2025 年

2026 年

12月12日(金) ～ 2月11日(水・祝)

【会場】1階 特別展示室 3階 収蔵展示室

【休館日】月曜日(ただし1月12日は開館、翌日休館)年末年始(12月28日～1月5日)

【開館時間】9:30～17:00

【観覧料】一般 520(410)円 高校・大学生 360(290)円 小・中学生 260(200)円

※()内は20人以上の団体割引料金。高齢者(65歳以上)と各障がい者手帳をお持ちの方は半額。
小・中・高校生は土・日・祝日・冬休み期間中は無料。

【主催】徳島県立文学書道館

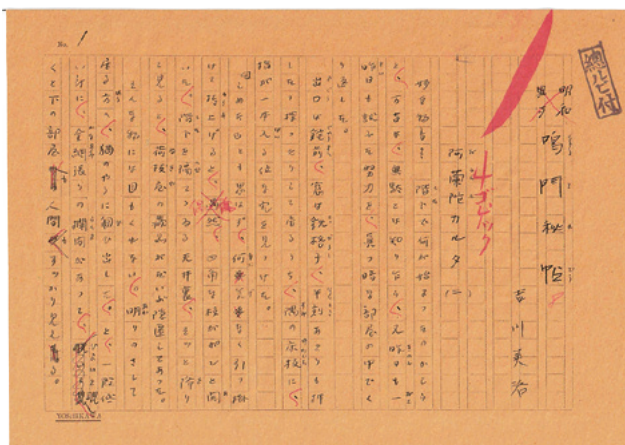
【後援】徳島新聞社・四国放送・NHK 徳島放送局



四国の東端に位置する鳴門は、その雄大な自然や歴史が多くの著名な作家や詩人、歌人、俳人たちを魅了してきました。

激流が渦を巻く鳴門海峡、四国八十八カ所霊場の一番札所・霊山寺、そして第一次世界大戦のドイツ兵捕虜と鳴門の地元民らが心を通い合わせ、ベートーベンの「第九交響曲」日本初演に至った板東俘虜収容所……。

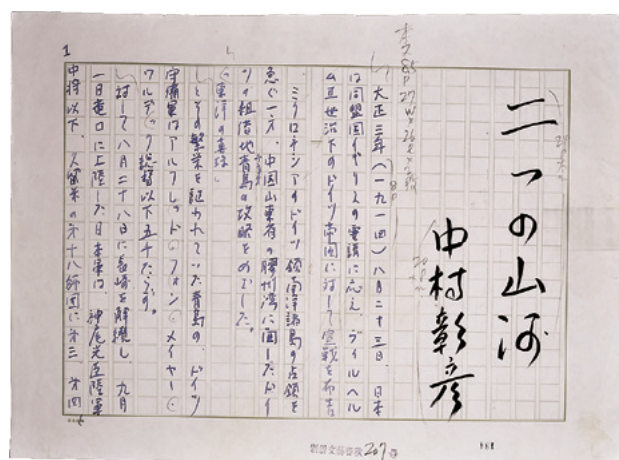
本展では、ベストセラーとなった吉川英治の時代小説『鳴門秘帖』、松江豊寿・板東俘虜収容所長を描いた中村彰彦の直木賞受賞作『二つの山河』などの小説に始まり、田山花袋、志賀直哉、林芙美子らの紀行文や、与謝野鉄幹・晶子夫妻らの短歌、橋本夢道、正岡子規らの俳句、吉野弘らの詩に至るまで、数多くの文学者が描いた鳴門の姿を紹介し、その魅力に迫ります。



1926年から27年にかけて大阪毎日新聞に連載され、ベストセラーとなった吉川英治『鳴門秘帖』の原稿（複製、吉川英治記念館蔵）



2012年3月、日本国籍を取得し、漢字の名前を手にするドナルド・キーン。キーンも鳴門を訪れた。（共同通信社提供）



中村彰彦の直木賞受賞作『二つの山河』の直筆原稿（日本近代文学館蔵）

関連イベント

講演会

「板東俘虜収容所・松江豊寿所長の『武士の情け』のルーツを求めて」



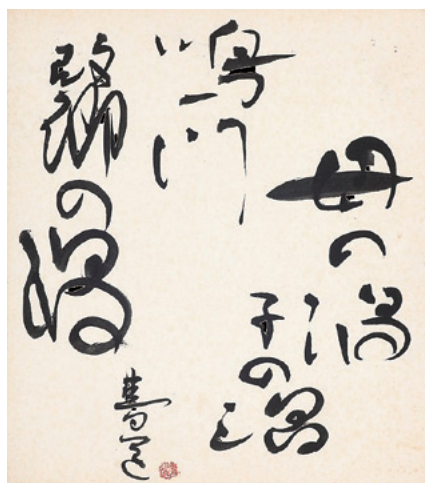
講師／中村彰彦（作家）
12月13日（土）14：00～15：30
定員／150人
申込締切／11月22日（土）
参加無料
＜なかむら・あきひこ＞
1949年、栃木県生まれ。文藝春秋編集者を経て、文筆活動に入る。『二つの山河』で直木賞、『落花は枝に還らずとも』で新田次郎文学賞を受賞。

＜講演会の申込方法＞

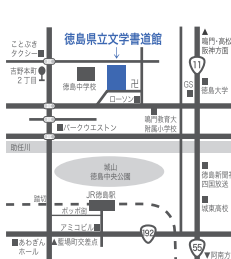
はがき・FAX・メールのいずれかにイベント名、郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、年齢、電話番号をご記入のうえ、お申し込みください。当館1階受付でも申し込めます。

展示解説

講師／辰巳日花里（当館職員）
12月21日（日）11：00～11：30
1月24日（土）11：00～11：30
申込不要、要観覧券



藍住町出身の俳人・橋本夢道の直筆色紙「母の渦子の渦鳴門故郷の渦」



交通アクセス（JR 徳島駅から）

- 徒歩 約15分
JR 徳島駅西側のポツポツ街を抜けて右折。踏切と助任川を越え、3つ目の信号を右折して約300m。徳島中学校東隣。
- バス
「徳島市営バス」7番乗り場「川内循環線（右回り）」に乗車。バス「吉野本町2丁目」で下車し、徒歩約5分。徳島バス「15番乗り場」前川経由に乗り。吉野本町2丁目下車し、徒歩約5分。
- タクシー・自動車 約5分
国道192号線、藍場町交差点を北進。助任川を越え、4つ目の信号を右折して約300m。
- 駐車場
当館北側・南側にあります（62台、大型バス2台）。